[巻頭言]

TOPIC とサイバーサイエンスセンター

水木 敬明

東北大学サイバーサイエンスセンター

上のタイトルにあります「TOPIC」は、「東北学術研究インターネットコミュニティ」を意味しています。TOPIC は、東北地区において学術研究・教育活動を支援するコンピュータネットワーク環境の発展に貢献するために活動しており、その事務局が東北大学サイバーサイエンスセンターに置かれています。筆者はこの巻頭言が掲載されている「大規模科学計算システム広報 SENAC」を編集している SENAC 編集部会の委員を長年務めています。今回ついに(?) 巻頭言の執筆がまわってきまして、何をテーマに書くべきか思案した結果、TOPIC についてご紹介することになります。

TOPIC の設立は 1992 年にさかのぼり、東北地方の学術系ネットワークとして長い間、この地域の大学・高専や研究機関を結びつけ、またインターネットにつながる基盤として機能してきました。その後、国立情報学研究所が運用する学術情報ネットワーク SINET が発展するに従って、TOPIC に接続していた東北地方の大学・高専等が直接 SINET に接続するようになり、TOPIC の地域ネットワークとしての役割、あるいはインターネットへの接続点としての役割は次第に無くなっていきました。現在の TOPIC は、TOPIC 参加機関の人と人をつなぐ、あるいは最新の技術・運用情報等にアクセスできる情報共有の場の提供を中心に活動しています。

もう少し具体的には、例えば今年度の事業計画は次の通りとなっています。

1. 東北地方の学術研究分野におけるインターネット利用に関する教育・啓発活動
 - (1) TOPIC セミナー・講演会の開催
 - (2) TOPIC 研修会
 - (3) ネットワーク担当職員研修会
2. 東北地方の学術研究分野に関する情報の収集および提供サービス
 - (1) WWW サーバの運用
3. TOPIC の活動に関する広報活動
4. 学術研究ネットワークの運用に伴う問題に関する検討
5. ネットワークの運用に関する技術的支援
6. ドメイン名に関する手続き・調整
7. インターネットコミュニティの活動への参加
8. インターネットに関する情報の収集および提供サービス
9. TOPIC の業務と運営の見直し
10. 以上を実施するために必要な諸業務

上記の 1 番目の項目について、TOPIC では定期的に講演会や研修会を開催しています。典型的には、毎年、春に開催される TOPIC の総会に合わせて講演会を行い、また秋には東北六県を年毎に巡回しながらネットワーク担当職員研修会を開いています。ちなみにその巡回の順番は、実績ベースで見ますと、宮城県→岩手県→秋田県→福島県→青森県→山形県(→宮城県に戻る)となっています。今年度のネットワーク担当職員研修会は宮城県で開催されましたので、来年度は岩手県での開催が予定されています。この研修会はいわゆる合宿形式となっておりユニークです。

前述の通り TOPIC の事務局は東北大学サイバーサイエンスセンターに置かれています。講演会や研修会の企画等は幹事会のメンバーで進めています。幹事会は連絡調整部と技術部からなり、現在のメンバーは次の大学・高専に所属しています：東北学院大学、岩手大学、会津大学、弘前大学、八戸工業大学、東北大学、山形大学、秋田大学、仙台高等専門学校、福島大学。すなわち、東北地方の多くの大学・高専の皆様のご協力により TOPIC 幹事会の活動が行われています。

インターネットに関連する資源管理や運用を支えている組織は JPNIC (日本ネットワークイン

フォメーションセンター) ですが、TOPICはその会員 No. 7 の非営利会員です。また、TOPIC 技術部主査の中西貴裕先生(岩手大学)が現在 JPNIC 理事(非営利・地域分野担当)を務めています。

TOPIC の活動を通して多くの方々と知己を得たことは(個人的にもセンターとしても)有難いことです。この巻頭言が掲載される SENAC は大規模科学計算システム(スーパーコンピュータ AOBA 等)の広報誌ですが、それとの関連で言いますと、以前に東北地方のいくつかの大学を訪問してサイバーサイエンスセンターの大規模科学計算システムを紹介したり体験いただいたりする取り組みを行った際、TOPIC でのつながりを活かして相手方の大学の方々とスムーズに企画を進めることができました。当時は内部的に「キャラバン」と呼んでいくつかの大学にお邪魔させていただきました。私は(自称?)キャラバン隊長(副隊長だったかもしれません)として、スパコン関係のセンター教職員の方々といくつかの県を訪れたことが懐かしく思い出されます。

話が少しそれましたが、最後に、現在の TOPIC 参加機関の一覧を掲載して、この巻頭言を閉じたいと思います。

<青森県>

弘前大学、八戸工業高等専門学校、八戸工業大学、八戸学院大学、青森大学、青森職業能力開発短期大学校、青森公立大学、青森中央短期大学、青森県立保健大学、弘前学院大学

<秋田県>

秋田大学、秋田公立美術大学、秋田工業高等専門学校、日本赤十字秋田短期大学、秋田職業能力開発短期大学校

<岩手県>

岩手大学、岩手医科大学、一関工業高等専門学校、岩手県立産業技術短期大学校、富士大学、岩手県立大学、盛岡大学

<山形県>

鶴岡工業高等専門学校、東北文教大学短期大学部、山形県工業技術センター、山形県立米沢女子短期大学、山形県立産業技術短期大学校、山形県立産業技術短期大学校庄内校、東北芸術工科大学、山形大学、山形県立保健医療大学

<宮城県>

宮城教育大学、東北学院大学、東北工業大学、東北文化学園大学、仙台高等専門学校、石巻専修大学、仙台白百合女子大学、宮城学院女子大学、東北大学、東北福祉大学、尚絅学院大学、東北職業能力開発大学校、宮城大学、東北医科薬科大学、東北生活文化大学

<福島県>

会津大学、福島大学、福島県立医科大学、東日本国際大学、いわき短期大学